

## 世界の食料市場、新型コロナによる不確実性になお身構え

### FAO「食料アウトルック」、乳・乳製品輸出は4%減見込む

国連食糧農業機関(FAO)は、世界の農産物需給などに関する「食料アウトルック(Food Outlook)」報告書を毎年2回公表している。6月11日に公表された最新号では、2020年の生乳生産は0.8%の増加が見込まれる一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響で輸入需要が鈍化し、乳・乳製品の輸出は4%減少すると予想した。同日出したニュースリリースでは「食料市場はなお不確実性に身構えている」とし、先を見通せない状況が今後何カ月にもわたって続くとの見方を示した。報告書のうち乳・乳製品の市場動向に関する部分と、ニュースリリースの内容を以下に紹介する。

#### 【食料アウトルック】(\*1)

##### 乳・乳製品の市場動向

2020年の世界の生乳生産量は0.8%増加し、8億5900万トンと予想される。主にアジアと北米で生産拡大が見込まれるためだ。中米、カリブ海地域、オセアニア、アフリカでも微増が見込まれるが、欧州と南米で微減が予想される。

アジアは、中国での農場近代化、インドでの農村協同組合のネットワークが生乳生産の伸びを支えている。米国は、酪農乳業サプライチェーンに制約があるものの乳量向上が見

込まれており、生産拡大につながるとみられる。メキシコは、消費者や産業の需要が堅調で生産が拡大している。

オーストラリアでは生産量が立ち直ると予想されるが、ニュージーランドでは乾燥した天候のため縮小しそうだ。EU加盟27カ国と英国でも、乳量は伸びるものの、飼養規模を考えると総生産量はわずかに減る見込みだ。ロシアでは新規組の経営体がけん引し、増加している。アルゼンチンも生産回復が見込まれるが、南米の他の国では、乾燥した天候によって生産の伸びが抑制される可能性がある。

#### 世界の乳・乳製品市場の概観

世界総量	2018年	2019年 (推定)	2020年 (予測)	増減(%): 2020年/ 2019年
総生乳生産量(百万t)	840.5	851.8	858.9	0.8
総貿易量(百万t=生乳換算)	75.9	76.7	73.6	-4.1
1人当たり消費量				
世界(kg/年)	111.4	111.6	111.4	-0.3
貿易のシェア(%)	9.0	9.0	8.6	-4.9
FAO乳製品価格指数 (2002~2004年=100)	2018年	2019年	2020年 1~5月	増減(%): 2020年1~5月/ 2019年1~5月
	193	199	198	-2.8

2020年の世界の乳製品輸出は、4%減の7400万トン(生乳換算)と予測される。このまま確定すれば、30年間で最も大きい下げ幅となる。主に中国、アルジェリア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦で輸入が減少するとみられるため、要因としては都市封鎖や、人と人の距離をあける感染防止対策に加え、経済減速や石油価格低下といったことも挙げられる。世界的に乳製品需要が落ち込み、EU、英国、ニュージーランド、アラブ首長国連邦、ウルグアイからの輸出が抑制される一方、米国とアルゼンチンからの出荷はやや増加する可能性がある。

世界的な乳製品輸入の減少と、主要輸出国での在庫増加のため、今のところ乳製品価格は弱い展開となっている。多くの国が経済的な試練に直面しており、今後数カ月間にわたり需要は抑えられ、乳製品の国際価格には下押し圧力が働くとみられる。

## 【ニュースリリース】(\*2)

### 世界の食料市場は新型コロナによる2020/21年シーズンの不確実性にお身構え

FAO 報告書は、世界の食料市場はまだ何カ月にもわたって新型コロナによる不確実性を抱える見込みだが、農業・食料部門は他の部門より高い強靭性を示すとみられる、としている。

「食料アウトック」は、穀物、油料作物、食肉、乳・乳製品、魚介、砂糖という、世界でも取引される品目の2020/2021年シーズンの生産・市場動向について初の予測を出している。

「あらゆる食料の部門で、程度の差こそあれ新型コロナ感染拡大の衝撃を感じた。新型コロナは食料安全保障に深刻な脅威をもたらしたが、世界的に見ると、農産品市場は他の多

くの部門に比べ、強靭性が高い。とはいえ、この難題の規模とそれに伴う大きな不確実性のため、国際社会は警戒を怠らず、必要に応じて対応する準備ができていなければならない」と、FAO 貿易市場部長の Boubaker Ben-Belhassen 氏は語った。

### 2020/21年シーズンの主な傾向と展望

#### 穀物

感染拡大に伴う不確実性を抱えるとはいえ、FAO 初回予測では落ち着いた需給状況を示した。初期の見通しでは、2020年の世界の生産量は前年を2.6%上回ることを示している。2020/21年シーズンの世界の貿易量は、2019/20年シーズンから2.2%増加し4億3300万トンと予測されている。すべての主要穀物での貿易拡大から、過去最高の記録が見込まれている。

#### 食肉

世界の生産量は2020年、1.7%減少すると予測されている。家畜の疾病、新型コロナ関連の市場混乱、長引く干ばつの影響のためだ。貿易は、主に中国に支えられて緩やかに伸びるとみられるが、2019年よりは鈍化する見込み。国際価格は2020年1月から8.6%下落した。羊肉が最も急激に下がり、家きん、豚肉、牛肉が続いた。物流のボトルネックの発生、世界的な輸入需要の減少、大量の在庫など新型コロナ関連の影響によるものだ。

#### 魚介

新型コロナの感染拡大は、海産物の市場、特に生鮮品やレストランでの人気種に大きな影響を与え続ける見込みだ。供給サイドでは、漁船団が漁に出ず、養殖業者は在庫目標を大幅に削減した。今回の感染拡大で、特にエビとサケの生産に深刻な影響が出るとみられる。一般的に4月に始まるアジアのエビ養殖シーズンは、6~7月まで遅れている。例えば

インドでは、養殖エビの生産量が30～40%減少すると予想されている。また、サケの需要は2020年には少なくとも15%減少すると予想されている。特に生鮮サケ・マスの小売りの販売が大きく落ち込んでおり、しばらくは回復しない見込みだ。

### 砂糖

2019～2020年の世界の生産量は2年連続で減少し、世界の推定消費量レベルを3年ぶりに下回ると予測されている。貿易は、低価格と一部の輸入国での在庫補強に支えられ拡大が予想されている。2019/20年シーズンの生産量が不足すると予測されたが、2017年半ば以降下落している国際価格の支持には今のところ結び付いていない。国際価格は、世界のほとんどの生産者の生産費を下回る水準だ。

### 乳

新型コロナの感染拡大に伴い市場が混乱したが、世界の生乳生産は強靱性を示しており、2020年には0.8%の増加が見込まれる。しかし輸入需要が鈍化する中、乳・乳製品の輸出は4%減少すると予想される。

### 油料作物

FAOの最新の油料種子・派生産品に関する2019/20年シーズンの予測は、生産量の著しい減少をきっかけに、世界的に需給が引き締まるとしている。2020/21年シーズンの暫定予測は、需給が引き続きタイトだと示唆している。

### 世界健康危機から世界食料危機へ？

報告書では、現在の新型コロナによる健康危機と2007～2009年の危機を比較し、相違点や共通点を挙げ、国際食料市場に焦点を合わせて影響などを調べた特集記事を載せている。

また、感染率がチェックされていない場合でも、市場の機能を正常に戻す方法に関する有益な基準を提供している。

特集記事では、2007～2008年の世界的な食料価格危機と比べると、現在は食料生産の見通しはポジティブで、在庫量は十分あり、国際価格は低く、貿易はより多くの輸入国と輸出国により幅広く基づいているため、順調に進んでいると結論付けている。さらに、現在、政策立案者は世界的な危機への対処においてより経験があり、情報と準備はより整っている。

ただし、世界的にはすべての人々に十分な食料はあるが、この感染拡大による経済成長の大幅な減速は、食料へのアクセスの問題につながり、特に新型コロナ以前にすでに飢餓や他の危機の被害を受けている国々では、十分なまたは栄養価の高い食料を得るための人々の能力を制限している。

### 参考資料:

(\*1)

<http://www.fao.org/3/ca9509en/ca9509en.pdf> Food Outlook. June 2020. P. 8. Food and Agriculture Organization of the United Nations.

(\*2)

<http://www.fao.org/news/story/en/item/1287515/icode/> Global food markets still brace for uncertainty in 2020/21 because of COVID-19 says FAO. Food and Agriculture Organization of the United Nations. (2020年6月16日参照)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)